

高校相撲金沢大会

東高初V

遠藤が個人優勝

北國新聞創刊115年記念・第92回高校相撲金沢大会は5月25日、金沢市の石川県卯辰山相撲場で開かれ、出場した金沢学院東高校チームは、団体で初優勝し、準優勝だった昨年の雪辱を果たしました。個人でも遠藤聖大主将が優勝し、武田恭平選手が3位に入りました。



飛田秀一大会長（北國新聞社社長）から表彰を受ける東高校の選手＝県卯辰山相撲場

武田3位

東高校は今年2月の弘前大会、3月の全国選抜大会（高知）に続いて3冠となりました。東高校は予選を3勝9点負けなしで決勝トーナメントに進みました。しかし、抽選で強豪校がひしめくブロックに入り、

東高校の熱戦譜

【予選】

- 1回戦 3-0 京都学園
- 2回戦 3-0 南砺福野
- 3回戦 3-0 高田農業

【決勝トーナメント】

- 2回戦 3-0 報徳学園
- 3回戦 2-1 鳥取城北
- 準々決勝 2-1 金沢市工
- 準決勝 2-1 東洋大牛久
- 決勝 2-1 埼玉栄



団体優勝を決めた瞬間

初戦から片時も息を抜けない熱戦が続きました。3回戦の相手は、昨年のインターハイ決勝、3月の選抜大会の決勝でいずれも東高校に敗れている鳥取城北。雪辱に燃える鳥取は、1勝1敗で迎えた大将戦で遠藤選手の脚を取って食い下がり、初優勝の期待が膨らむ東高応援席の生徒、教職員をヒヤリとさせました。決勝の対戦相手は、弘前大会と同じ埼玉栄でした。先鋒の武田選手が小手投げで敗れたものの、

中堅の袖川選手が押し出し、大将の遠藤選手が鮮やかな引き落としで勝つて、念願の黒鷲旗を手にしました。予選3勝の全選手が出場する個人戦では、団体戦全勝の遠藤選手が快進撃を続けて頂点に立ち、団体戦で苦戦した武田選手も奮闘して見事に3位に食い込みました。大澤監督は「大会直前に選手の故障もあって心配したが、チーム一丸となった勝利」と感激の様子でした。



初優勝にわく応援席



受講者で満席の土曜大学

今年の公開講座始まる

平成二十年金沢学院大学の公開講座は五月三十一日、基礎教育機構の土曜大学「ワードエクセル機能を利用する」を皮切りに始まりました。岡田政則教授、春名亮講師が約五十人の受講者に、ワード文書にエクセルのワークシートやグラフを張り込んだり、加工した絵を入れるなどの処理を指導しました。

2教授が名誉会員に

金沢学院短期大学の岡島厚学学長補佐・教授はこのほど、東京で行われた日本機械学会の総会で名誉員に推薦されました。また、山岸政雄教授は先ごろ、福岡で開催された日本色彩学会の総会で名誉会員に推薦されました。